

「わたしの居場所」展

主催：静岡県立美術館
会期：年間を通して断続的に開催

主旨

今日の厳しい社会状況の中で、がんばっている若者を見るのは、とても勇気付けられることである。美術の世界でも、こつこつ制作に励んで、しぶとく生き抜いている若手作家たちがいる。そうした人達の作品、活動を一年かけて、次々に紹介するのが、この静岡New Art「わたしの居場所」展である。ただし展示室ではなく、エントランスや廊下、中庭など、普段は見過ごしているような場所を、作家が自ら探し出して利用する。また、作家と市民とが交流できる様々な事業を展開した。概要をまとめると以下の6点になる。

静岡ゆかりの若手作家に活躍の機会を与え、広く紹介する。

作家の個展形式を基本に、年間を通して断続的に開催する。

一年を通じた全体のテーマ「わたしの居場所」を設定し、現代美術の若い作家たちの「わたし」と「居場所」を観察しながら、同時に現代美術の「居場所」を問う。

「居場所」探しは、展示のレベルに反映される。展示場所は展示室以外の場所、たとえば廊下や中庭など、普段は見過ごされているような場所を、作家が探し出して作品を設置する。それは美術館という建築空間に「現代美術の居場所」を探す試みでもある。

「居場所」探しは予算のレベルにも反映される。常設予算枠の館蔵品図録製作費を、この美術館における現代美術企画に対する、とりあえずの予算的「居場所」と考え、その枠内で実施、開催する。

そして、さらに「居場所」探しは、開催時期のレベルにも反映される。企画展、常設展などとの兼ね合いや隙間を見計らって、現代美術の展示が許される時間を探す。

事業一覧（4つの展覧会と、8つのワークショップ、その他4つの、合計16事業を開催）

鈴木貴博

- 3/18-4/20 ビデオ放映「帰ってきた生きる」（美術館2階ビデオコーナーにて）
- 4/19 講演とワークショップ「100万人の

生きる プロジェクト」（美術館実技室にて）

- 12/1 講演とワークショップ「100万人の生きる 中学生編」（小笠町立岳洋中学校にて）

村上暁子

- 4/12,13,26,27 版画実技講座（美術館実技室にて）
- 6/3-29 村上暁子展（インスタレーション作品3点を展示）

佐原路子

- 7/29-8/24 佐原路子展（インスタレーション作品6点を展示）
- 7/29 学芸員実習生へのレクチャー（講座室、展示会場にて）
- 8/9 ワークショップ「自分あての絵手紙づくり」（美術館実技室にて）

高橋唐子

- 9/13,14 ワークショップ「ロダン体操をしよう!!」（New!! わかふじ国体関連事業、ロダン館開館10周年プレ・イベント「VIVA! Rodin」関連事業 美術館講座室、ロダン館にて）

佐原路子 + 高橋唐子

- 11/2 ワークショップ「こんにちは！ ワークショップですよ。」（静岡県立美術館名品展「風景へのまなざし」関連事業 常葉美術館にて）

安岐理加

- 11/11-12/7 安岐理加展（インスタレーション作品2点を展示。ただし、エントランスの作品は11/5から公開）
- 11/30 ワークショップ「影絵写真でパラパラノートを作ろう」（美術館実技室、展示会場にて）

横山飛鳥

- 1/6-2/1 横山飛鳥展（インスタレーション作品6点を展示。ただし名品コーナー脇の作品は、1/11より公開）
- 1/11,25 鑑賞会「作家による特別鑑賞会」（美術館中庭にて）

記録集 (A4版 32p)

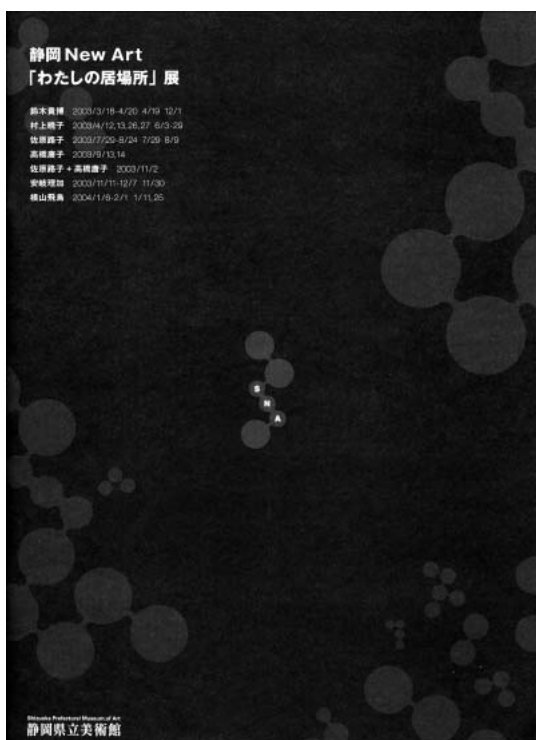
内容

- ・ごあいさつ 謝辞 事業一覧 図版 (展示、ワークショップなどの記録写真)
- ・エッセイ：堀切正人 (当館学芸員)
「展覧会」マッピング わたしの / 現代美術の / 美術館の居場所

出品目録 p.112参照



チラシ (前期)



記録集



チラシ (後期)